



## 「仕事を盗む」

今の時代は、自分の身に付けたい技術や知識は学校で学ぶのが一般的です。理容師になりたいければ、理容学校に行ってカットの仕方や様々な基礎を学ぶことができます。英語が話せるようになりたいければ、英会話学校に入学すれば直ぐにレッスンを受けることができます。私もドラムを叩けるようになりたいかったので、音楽教室で1年間学んで、好きな曲を叩けるようになりました。

昔は、どのように技術や知識を身に付けたのでしょうか。江戸時代では、学校などはありませんでしたので、親方のところにお世話になって、親方の仕事を見て、真似て技術を自分なりに身に付けていきました。親方は仕事をしている姿を見せるだけで、手取り足取り指導をしてくれませんでした。弟子は必死に親方の行動を見て学んでいたのです。大事なものは真似るといことです。親方の仕事を真似して親方の仕事と同じことができるように努力したわけです。仕事がちゃんとできるようになれば、親方は給料もくれるし、「お前は、もう一人前なので自分でお店を持ちなさい」とアドバイスしてくれました。

現在は、学校や専門学校でノウハウは教えてくれますが、今の時代でも、一人前になるための過程で、先輩や上司の仕事を見て、大切な心を盗むことがたくさんあります。私は、大学で社会科の教員免許状をとるための勉強を一生懸命に取り組んできました。教員採用試験に合格して、教壇に立った時、大学で一生懸命に学んできたので、絶対的な自信を持って、授業や担任として学級経営に取り組みました。しかし、その自信は、すぐに崩れてしまいました。生徒は授業を聞いてくれずに、私語をしだすし、クラスは班活動などをしっかり行わない生徒がでて、クラス内に常に不満の声が上がっていました。大学で学んできたときは、このような事態を想定しませんでした。私は、悩みました。自信もなくなりました。そんな時に、授業を整然と進めている先輩教師や学級を楽しく活動させている先輩教師を見て、私は、自分とどこが違うのだろうかと思い、先輩の先生の授業や学級経営を毎日のように見学させてもらいました。授業を参観していると、私語を始める生徒に「〇〇さん、この問題を君はどう思う？」と指名して、集中力が切れた生徒の気持ちをつなげていきます。また、全体の集中力が落ちてくると「昨日ね、先生は、〇〇したんだよ」などと話題を切り替えて、全体の集中力を高めたり、一時間の授業の中で細かく生徒の動きを見て、指示を出したり、質問したりしていました。こんなことは、大学の授業では習うことはありません。しかし、実際仕事を進める上では、仕事をする気持ちや、想いが大切なのだということが分かりました。そのような人の見えない心の部分は学校では教えられないことはないし、教科書などに説明されているものではありません。どんな仕事にも、人の心が問われる部分があります。それは、先輩や上司から、または、同僚の実際の仕事をしている中からその気持ちを感じて学ぶしかありません。私はこの心の部分が一番大事だと思います。教科書だけでは学べない、人から人へ受け継がれていくものそれが大事だと思います。しかし、今の時代、どの仕事もこの心を受け継ぐことが薄れているのではと心配になります。









t るみ g 輝美



















